

登録コード	J5030200	開講年度	2026				
授業科目	ミクロ経済学					担当教員	廣瀬 純夫
英文授業名	Intermediate Microeconomics					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・2時限	対象学年	(20・23カリ対象科目) 経：2年/法：3年(23カリは法：2年)
講義室	経法第3講義室		授業区分	講義	遠隔授業科目		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					【授業の達成目標】	
経法23加(2026改)・応用経済, 経法23加・応用経済							
専門知識を応用・実践する力として, 計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価, 実験経済学による社会制度の機能の検証, 医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘, 法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証, などのスキルを習得し, 経済の実情に即した政策提言, あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。					専門領域での基礎知識として, ミクロ経済学分野での, 不確実性がある下での意思決定の問題, および, 情報の非対称性の問題について, 数学を用いたモデルを通じて理解し, 現実の社会現象に応用することができるようになる。		
経法23加(2026改)・応用経済, 経法23加・応用経済, 経法20加・応用経済							
【2020年度以降カリ対象】専門領域での基礎知識として, 経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして, 経済理論の応用分野として, 金融, 公共政策, 法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで, 専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。					専門領域での基礎知識として, ミクロ経済学分野での, 不確実性がある下での意思決定の問題, および, 情報の非対称性の問題について, 数学を用いたモデルを通じて理解し, 社会に直面する問題について, 経済学的な考え方に基いて解決策を考えることができるようになる。		
経法23加(2026改)・総合法律, 経法23加・総合法律							
環境問題や, 企業や行政の組織内において, 日々生起する諸問題について, 理工学分野や経済学分野の思考方法にも一定の理解を持ち, 総合的に解決していくことのできる能力を身につける。					経済学分野の思考方法として, ミクロ経済学分野での, 不確実性がある下での意思決定の問題, および, 情報の非対称性の問題について, 数学を用いたモデルを通じて理解し, 企業や行政の組織内での問題等について, 多面的に検討し, 解決策をかんがえることができるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	1. 授業のねらい この講義では, 前期の「ミクロ経済学」の学習を前提として学習をします。「ミクロ経済学」では, 市場メカニズムを通じて達成される“市場均衡”が社会的に効率的な資源配分を実現することを学習します。しかし, 現実の経済社会では, 市場メカニズムに調整を委ねるだけで効率的な資源配分が実現するとは限りません。その理由は, 市場メカニズムが円滑に機能することを妨げる要因が存在するからです。 そのような障害要因の代表的なものの一つとして, この講義(ミクロ経済学)では, 主に「情報の非対称性」の問題を取り上げます。 「情報の非対称性」の問題は, 大きく2つに分けることができます。“取引前”の情報の非対称性の問題である“逆淘汰”と, “取引後”の情報の非対称性の問題である“モラル・ハザード”です。まず講義の初めでは, これらの問題を取り上げる上で必要となる“期待効用”や“不確実性下の意思決定”, “ゲーム理論の基礎知識”について解説します。その上で, 情報の非対称性がどのような問題を引き起こすのか, さらにその問題を解決するためのメカニズムなどについて説明します。さらに, より高度なトピックとして, 講義の終盤では, “不完備契約の理論”についても言及する予定です。 世間では, 「ミクロ経済学」で学習する市場メカニズムの考え方を現実の経済にあてはめて政策議論等を行うことに対して, 強く批判する声が少なくありません。確かに, 市場メカニズムに全てを任せておけばすべてがうまくいくというようなことはなく, 多くの問題点が残されることになります。うまくいかない理由は, この講義で学ぶ情報の非対称性の問題など, 現実の経済取引には, 市場メカニズムが円滑に機能することを妨げる要因があるからです。この講義では, 市場経済システムの問題点を考える上で, 幾つかの重要な手がかりを提供していく方針です。ミクロ経済学で学んだ市場メカニズムと現実経済との対応を, より深く理解する機会となるよう, 講義を進めたいと考えています。 2. 授業の概要 「情報の非対称性」の問題は, 大きく2つに分けることができます。“取引前”の情報の非対称性の問題である“逆淘汰”と, “取引後”の情報の非対称性の問題である“モラル・ハザード”です。まず講義の初めでは, これらの問題を取り上げる上で必要となる“期待効用”や“不確実性下の意思決定”について解説します。その上で, 情報の非対称性がどのような問題を引き起こすのか, さらにその問題を解決するためのメカニズムなどについて説明する予定です。						
(5)授業計画	第1回 不確実性下の意思決定 第2回 期待効用と消費者のリスクに対する態度 第3回 リスク回避的な個人の確実性同値額とリスクプレミアム 第4回 無差別曲線を用いたリスク回避的選好に関する考察 ここまでの理解度確認のための小テストを, eAlps上で実施(受験は, 授業時間外) 第5回 資産ポートフォリオの選択の問題 資産ポートフォリオの選択の問題の理解度確認のための小テストを, eAlps上で実施(受験は, 授業時間外)						

(5)授業計画	第6回 保険契約による効率性の改善（公正な保険の場合） 第7回 保険契約による効率性の改善（公正な保険ではない場合） 保険契約の問題の理解度確認のための小テストを，eAlps上で実施（受験は，授業時間外） 第8回 情報の非対称性の構造：事前と事後の情報の非対称性 第9回 モラル・ハザード（1）：プリンシパル・エージェント問題とインセンティブ契約の基本モデル（情報の非対称性が無い場合） 第10回 モラル・ハザード（2）：情報に非対称性がある場合のインセンティブ契約 第11回 最適な賃金契約（エージェントがリスク中立的な場合） 第12回 最適な賃金契約（エージェントがリスク回避的な場合） モラル・ハザードの問題の理解度確認のための小テストを，eAlps上で実施（受験は，授業時間外） 第13回 逆淘汰の基本モデル 第14回 逆淘汰の問題の緩和(1)：保険契約でのスクリーニング 第15回 逆淘汰の問題の緩和(2)：シグナリングとしての貸し出し契約における担保の役割，授業アンケート 逆淘汰の問題の理解度確認のための小テストを，eAlps上で実施（受験は，授業時間外） 第16回 期末試験
(6)成績評価の方法	授業内容の理解度を確認する小テストと，期末試験を用いて評価します． まず，5～6回程度，eAlps上で小テストを実施します．それぞれ10点満点で，5回実施であれば，合計点が，50点満点の点数が成績評価対象になります． 期末テストは，100点満点です． その上で，成績評価は，期末試験の点数を優先して，評価対象の点数とします． 次に，期末テストの点数が60点未満の場合，小テストの合計点と期末テストの点数の合計点が60点以上の場合，成績評価上の点数を60点として評価します． 小テストと期末試験の合計点が70点以上や，80点以上になっても，“良”や“優”にはなりません．
(7)成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」，応用問題が解ければ「やや上にある」，やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」，例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」．
(8)事前事後学習の内容	講義の中では，多変数関数の偏微分により，関数の値が最大，あるいは最小となる条件を求める，といった作業が頻繁に扱われます． さらに，確率を用いて加重平均をするといった作業も，行います． こうした数学的な扱いを理解するためには，講義資料や教科書の内容を暗記するだけでは不十分です．講義中に紹介する例題などを実際に解いてみるなどの練習を繰り返すことが，講義内容を習得する上で役に立つはずですが，そのためには，毎回の講義の後，一定時間（30分から1時間程度）を復習のために費やすことが求められます．期末試験の直前に一夜漬けで勉強するだけでは，単位の取得は難しいので注意して下さい． 復習の過程で不明な点や理解できない点が出てきた場合，必ず担当教員に質問するよう心掛けること．経済学の分析による帰結は，普段，直観的にイメージしていることとは異なることが少なくありません．学習した内容をすぐに確認し，理解するように努めて下さい． 講義の内容については，毎回レジュメを配布するほか，必要に応じて参考文献を紹介するので，それらを活用すること．
(9)履修上の注意	ミクロ経済学 を履修していることを前提として講義を進めます．高度な数学を用いる予定はありませんが，ミクロ経済学 で学んだレベルの基本的な数学の知識（たとえば，偏微分や全微分，2階の導関数など）を活用できるよう復習しておいて下さい．1年次前期の『経済数学A』を履修していることも前提とします．特に予習を行うことは求めません．初めて学ぶ概念も多いと思いますので，講義の後に十分に復習をして下さい．
(10)質問,相談への対応	オフィスアワーの時間は，木曜日4限とします．オフィスアワー以外の時間での質問を希望する場合，予め，メールでhi.rose@shinshu-u.ac.jpに連絡を取り，アポイントメントをとること．研究室を不在にしていることがあります．
【教科書】	特に指定する教科書はありません．講義中にレジュメを配布します．より深い理解を求める場合，下記の参考書で詳細な解説を確認することを勧めます．
【参考書】	神取道宏「ミクロ経済学の力」（日本評論社，2014年） 奥野正寛「ミクロ経済学」（東京大学出版会，2008年） 武隈慎一「ミクロ経済学 増補版」（新世社，1999年） 神戸伸輔「入門 ゲーム理論と情報の経済学」（日本評論社，2004年） 梶井厚・松井彰彦「ミクロ経済学・戦略的アプローチ」（日本評論社，2000年） 柳川範之「契約と組織の経済学」（東洋経済新報社，2000年） 清水克俊，堀内昭義「インセンティブの経済学」（有斐閣，2003年） 伊藤秀史「契約の経済理論」（有斐閣，2003年） ロバート・ギボンズ「経済学のためのゲーム理論入門」（創文社，1995年） 酒井良清，前多康男「新しい金融理論—金融取引のミクロ的基礎から金融システムの設計へ」（有斐閣

【参考書】	, 2003年)
-------	-----------